

経済学を 同志社大学にて 学ぶ意義

はじめまして。経済学部に入ったらどんな勉強ができるのかな、卒業したらどんな将来になるのかな、どんな教員がいるんだろうと今お読みになっていらっしゃるのだらうと思います。私は、同志社大学経済学部・大学院を卒業して、2022年度に教員に着任しました。その様な声にお応えすべく、同志社大学経済学部での学びについて私の体験をお話したいと思います。

私は、広島市で生まれ育ちました。被爆3世として祖父母らに戦争の遺恨を見ているためでしょうか、世の中の不条理を解決したいという気持ちが小さな頃からありました。紛争地域を巡って解決に携わり、伴う貧困や



迫田さやか

Sakoda Sayaka

【研究テーマ】

所得分配論・労働経済学・医療経済学

E-mail ssakoda@mail.doshisha.ac.jp



不平等を解消したい、そのために必要な勉強をしたいと思っていました。受験勉強の傍ら、NGO や国際機関の現場で貧困解決を図る方々の手記、不平等や格差の問題について書かれた専門書を背伸びして読もうとしたものでした。ロールズの『正義論』やドゥオーキンの『平等とは何か』を四苦八苦して読んだ（気になった、というのが正しいです。）中で、経済学を学ぶのは選択肢として悪くないかもしれないと選びました。同志社大学経済学部を出て何になれるのだろう、そんな不安を抱えて入学しました。その一方で、大学生の自由な生活や、一人暮らしへのワクワクさ、友人・先輩との関係などが楽しく、「世の中の不条理を解決したい」という初心や勉強への熱意はどこへやら忘れてしまっていました。

経済学部の専門科目で扱われる数学、経済理論、経済用語には理解が追いつかなかったり、これを勉強して何がわかるというのかしらと関心がいまいち持てなかつたり…。ですが、熱をもって授業を進める先生方の姿に、「どうも大事なことを一生懸命話しておられる」、「あの難しい理論にどうして興味がわいたんだろう」、「なぜその研究を始めたんだろう」と興味がわくようになりました。大学の先生に話しかけるといことは当時の私には非常に勇気のいることでしたが、「なんでその研究を進めていく必要があるんですか」と疑問をぶつけると、時間をとってお話をしてくださったり、こんな勉強をするといよいよ、と本や資料、さらには他の方をご紹介してくださったりと様々な機会を頂くことができました。その



様にして経済学の様々な専門科目についてじっくり読んだり、深く聞くようになったりしたとき、もともと私が学びたいと思っていた分野である格差や不平等がなぜ起きるのかを分析し、解明する「労働経済学・所得分配論」に出会いました。

一般的に、私たちは、戦争や衝突を嫌い、また他人から不当に扱われることを嫌うはずですが、我々の願いとは裏腹に繰り返し起きてしまっています。より身近な例では、男女・人種・出生地・年齢などを理由とする様々な差別が今までありました。差別は社会通念上悪いこと、そして、差別されると悲しいということは誰もが知っていることですが、差別はなかなかなくなりません。差別をすることは法律や人権という点から声高に糾明されることですが、経済学においても扱われて、Gary Becker は、著書 "The Economics of Discrimination" において差別を金銭換算し、差別をする雇用主・同僚・顧客は差別に対する対価を支払わなければならないと述べました。差別をすることは、自身に利をもたらす様に見える行動ですが、むしろ自分を含めて社会の不利益になるという研究はとても印象に残りました。

現実に起きたことのデータを基に、なぜ起きてしまったのかを解明するとともに、どの様にしたら繰り返さないかということを考えることができれば、私たち人類の叡智は進むでしょう。経済学での勉強を通して、世の中で起きている不条理の解決に少し貢献できるかもしれない—というのが私が研究者としてやっていこうと決意し

た理由です。所得格差、様々な社会制度での格差、医療・健康面の格差などを調べ、分析し、こうあればより各人の才能を活かすことのできる社会になるのではないかと論文を書いています。

同志社大学に入学する前の日に、恩師の先生から「どこで学ぶかじゃないよ、何を学ぶかだよ」と花向けの言葉を頂きましたが、同志社大学の学生として私はその学ぶべき「何か」を教えていただいたように思っています。私が抱いた、紛争地域を巡って解決に携わりたいという夢は結果としてはかないませんでした。伴う貧困や不平等を解消することに貢献したいという志となって私の研究者・教員生活を支えてくれています。その様な教育を行うのが本学の魅力です。

同志社大学経済学部に皆さんやご子息が入学されたならば、志に関して「何か」を得る体験をしてもらえるように、また、私が得た学恩を返せるように一緒に勉強していきたいと思っています。